

技術ブランド戦略の設計から実装まで。
経営資産として定着させる6ヶ月の伴走支援

GIBAN / ギバン

技術広報基盤構築パッケージ

PROVIDED BY



SERVICE INTRODUCTION

技術ブランドを経営資産として設計する

戦略不在の発信活動から脱却し、経営戦略と同期した技術ブランドの構築へ。

ISSUE



組織設計の不在

個人のスキルや善意に依存した発信活動は、持続性と再現性に欠けます。

多くの組織で、経営戦略と現場の実務をつなぐ「機能としての広報設計」が欠如しています。

SOLUTION : GIBAN



戦略から実装まで伴走

単なる実務代行ではありません。

貴社の技術ブランド戦略の策定から、それを実行するための組織体制の構築まで、6ヶ月間の伴走支援で実装します。

VALUE



経営資産としての定着

人が変わっても機能し続ける「仕組み」が組織に残ります。

採用力向上や開発組織のプレゼンス向上など、企業価値を高め続けるブランド資産が定着します。

技術広報における「経営課題の本質」

技術広報が機能しない真因は、個人のスキル不足ではなく、経営と現場を接続する「組織設計」の欠落にあります。

▲ 構造的な組織課題



経営戦略との不接続

経営が描く「あるべきブランド像」と、現場の「発信タスク」が分断。投資対効果（ROI）が見えないまま、リソースだけが浪費される状態。



組織的な役割定義の欠落

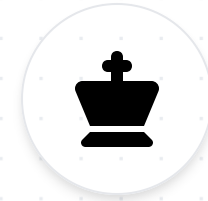
採用・広報・開発の境界でボールが落ちる。特定個人の善意とスキルに依存し、組織として再現性のある運用体制が組めていない。



ブランド資産の散逸

実施した施策がナレッジとして蓄積されず、担当者の退職と共に企業から技術ブランドの文脈とノウハウが失われるリスク。

💡 結論（真因）



担当者の採用（人への投資）だけでは
根本解決しません。

経営と現場を繋ぐ
「戦略設計」の不在

こそが、取り組むべき本質的課題です。

人材依存からの脱却：戦略設計という選択

不確実な「人」への依存から脱却し、「組織」に資産を残す経営判断をご提案します。

⚠ 人材依存モデルの限界 (Conventional)



採用難易度と定着リスク

優秀な技術広報人材は市場に極めて少なく、年収800万円～の投資が必要です。採用後もカルチャーマッチや早期離職の不確実性を抱え続けます。



戦略不在の試行錯誤

専任者がいない場合、兼務での対応となり戦略設計が後回しに。場当たりの発信が続き、ブランド資産が積み上がらない期間が長期化します。



知見のブラックボックス化

担当個人のスキルや暗黙知に依存するため、退職と同時にノウハウが消失。組織としての再現性が担保されず、活動が停止するリスクがあります。

🏗 戦略設計支援の価値 (Strategic Asset)

投資対効果の最大化

約 **1/4 ~ 1/2**

※一般的な人件費・採用コストと比較して

トップティアのナレッジを組織に実装。
コンサルティング投資として高いROIを実現。



経営視点の設計

事業目標と連動した
構造的な戦略実装



再現性の担保

誰が担当しても
機能する仕組み化

技術広報が創出する「3つの時間軸的価値」

短期的な採用効果に加え、中長期的な経営資産としてのブランド価値を構築します。

SHORT TERM / 人事戦略



採用競争力の 即時強化

■ 経営インパクト

エンジニア市場における認知獲得と共感形成により、採用コストの最適化と母集団の質的向上を実現。

MEDIUM TERM / 事業戦略



技術選定の 信頼性向上

■ 経営インパクト

開発プロセスと技術力の透明化により、顧客・パートナーからの信頼を獲得し、事業優位性を証明。

LONG TERM / 企業価値



企業価値の 持続的成長

■ 経営インパクト

「技術力のある企業」としてのブランド資産を確立し、市場評価の向上と持続的な競争力を確保。

コンセプト：「戦略と実務の統合」 × 「投資対効果の可視化」

経営戦略と現場運用をシームレスに接続し、技術広報のROIを透明化します。



CONCEPT 01

経営戦略と実務の統合設計

経営層の期待（**ブランド構築**）と
現場の活動（**発信タスク**）を、
定義された **共通フレームワーク** で完全同期させます。

+



CONCEPT 02

投資対効果（ROI）の透明化

ブラックボックス化しやすい広報効果を
経営指標（KGI/KPI）と連動させてスコアリング。

採用貢献

技術資産

企業価値

↓

VALUE PROPOSITION



投資に対するリターンを透明化し、
組織的な納得感と持続可能な運用体制を醸成します。

まずは現状整理から始めませんか？
貴社の技術広報課題を無料で診断

🔄 無料診断

バリュー資産 ①：戦略基盤 (Strategic Core)

「誰に」「何を」伝えるかを定義し、経営戦略と同期したブレない指針となる3つの戦略アセットを提供します。

STRATEGY 01



技術採用ブランド 戦略設計書

ターゲットとなるエンジニア像（ペルソナ）を再定義し、経営目標に直結する「訴求軸」を戦略的に設計します。

- ✓ ハイレベルペルソナ定義
- ✓ EVP（従業員価値提案）策定
- ✓ 競合優位性（Moats）分析

STRATEGY 02



技術ブランド アーキテクチャ設計書

自社の技術的資産を棚卸し、エンジニアが「選ぶ理由」を論理的かつ体系的に言語化したコア・ドキュメント。

- ✓ Tech Vision / Mission策定
- ✓ 技術ブランド・ストーリー
- ✓ ブランド・ガイドライン

STRATEGY 03



経営指標連動型 評価フレームワーク

採用貢献・ブランド資産価値を定量的に測定し、経営判断に資する評価指標を構築します。

- ✓ KGI/KPIロジックツリー
- ✓ ブランド資産評価指標
- ✓ ROI測定モデル

バリュー資産 ②：実行基盤 (Tactical Logic)

策定されたブランド戦略を、組織が確実に実行できる「実装計画」と「標準プロセス」に落とし込みます。



ASSET 01

技術ブランド 実装ロードマップ

戦略に基づき、いつ・誰に・何を届けるかを定義した中長期の実行計画を策定します。

- ✓ 年間マイルストーン策定
- ✓ ステークホルダー別施策
- ✓ リソース配分計画

DOCUMENT TYPE



ASSET 02

チャンネル戦略 設計書

ターゲットエンジニアへの到達率を最大化するため、各メディアの役割と活用方針を戦略的に設計します。

- ✓ ポートフォリオ設計
- ✓ 媒体別KGI/KPI設定
- ✓ コンテンツ配信戦略

DOCUMENT TYPE



ASSET 03

運用プロセス 標準化ガイド

属人化を排除し、組織として高品質なアウトプットを継続するための業務プロセスを標準化します。

- ✓ 品質管理基準(QC)
- ✓ リスク管理フロー
- ✓ ナレッジ蓄積プロセス

DOCUMENT TYPE



バリュー資産 ③：組織資産 (Autonomous System)

属人化を排除し、組織そのものが広報機能を持つ「自走可能な組織基盤」を構築します。



ASSET 01

組織体制 設計書

部門間の連携プロセスと役割定義（RACI）を策定し、組織としての意思決定フローを確立します。

- ✓ 部門間連携フロー図
- ✓ 役割定義・権限規定（RACI）
- ✓ 意思決定会議体設計

DOCUMENT TYPE



ASSET 02

パフォーマンス 測定フレームワーク

経営目標（KGI）と連動した評価指標を策定し、技術広報の投資対効果（ROI）を可視化します。

- ✓ ROI測定ダッシュボード設計
- ✓ 多角的評価指標（採用/事業）
- ✓ PDCAサイクル運用規定

DOCUMENT TYPE



ASSET 03

自律運用 標準化ガイド

特定の人材に依存せず、組織内でナレッジが循環・蓄積される「自走可能な仕組み」を実装します。

- ✓ ナレッジマネジメント規定
- ✓ 業務標準化・引継ぎガイド
- ✓ インシデント対応マニュアル

DOCUMENT TYPE



組織の変革：経営資産としての定着

担当者依存の不安定な構造から、経営戦略と実務が直結した「戦略資産」へ。

導入前の「構造的停滞」

経営アジェンダとの接続

分断と曖昧さ

経営が描く「ブランド像」と現場の「発信タスク」が分断。何のための広報か曖昧な状態。

組織設計と人材育成

属人化とキャリアの停滞

オペレーターとしての実績のみが積み上がり、戦略を担う人材が育たない・定着しない。

シームレスな組織連携

摩擦と情報格差

人事・開発・広報の共通言語がなく、連携の摩擦や情報格差によりパフォーマンスが低下。

経営判断に資する透明性

ブラックボックス化

「記事数」や「PV数」などの表面的な数値に終始し、採用や事業への貢献度が見えにくい。

導入後の「戦略資産としての定着」

完全同期による資産化

経営目標から逆算された「基盤」により、日々の発信活動が自動的にブランド資産として蓄積。

役割定義と知見の組織化

戦略（マネジメント）と実行（スペシャリスト）が定義され、組織的な知見として継承可能に。

最小工数で最大効果

共通言語と運用フローの確立により、部門間の壁を越えた有機的な連携を実現。

投資対効果の可視化

採用・プロダクト・企業価値の3軸で貢献度をスコアリング。透明性の高い投資判断が可能に。

導入プロセス：6ヶ月ロードマップ

戦略設計から実装、そして定着へ。経営資産として機能させるための標準プロセス。



※ 上記は標準的なモデルケースです。貴社の課題フェーズに合わせて、最短3ヶ月での短期集中プラン等もカスタマイズ可能です。

プラン比較：支援深度と提供価値

組織フェーズと目指す変革レベルに合わせた、3つの支援プランをご用意しています。

SERVICE LEVEL 提供アセット / 支援内容	Foundation 戦略基盤構築プラン	★ RECOMMENDED Standard 戦略実装支援プラン	Advanced 組織変革伴走プラン
戦略設計 技術ブランド方針・KGI策定	✓	✓	✓
戦略設計 技術採用ブランド戦略設計書の策定	✓	✓	✓
組織設計 人事・開発の連携フロー・役割定義	✓	✓	✓
組織設計 運用ガイド・KPI評価フレームワーク提供	✓	✓	✓
実装支援 運用プロセス標準化ガイドの最適化	-	✓	✓
実装支援 複数チャンネル（ブログ・SNS等）の活用設計	-	✓	✓
実装支援 社内エンジニアの発信文化定着支援	-	✓	✓
変革支援 大規模イベント・カンファレンス企画支援	-	-	✓
変革支援 動画/Podcast等のリッチコンテンツ制作支援	-	-	✓

投資計画・価格体系 (6ヶ月総額・税別)

貴社の技術ブランド戦略に合わせて、最適な支援フェーズを選択いただけます。

Foundation

戦略基盤構築プラン

投資額 (6ヶ月)

240 万円(税別)

経営と現場を繋ぐ基盤設計

「何のために発信するのか」という戦略と、自走するための「最低限の仕組み」を資産化します。迷走リスクを回避する初期投資です。

- ✓ 技術ブランド方針策定
- ✓ 採用広報戦略レポート
- ✓ 運用ガイド・KPI設計

★ RECOMMENDED

Standard

戦略実装支援プラン

投資額 (6ヶ月)

420 万円(税別)

実装から定着までの伴走支援

戦略設計に加え、**現場エンジニアの巻き込みと複数チャネルの最適化**まで実装。組織として採用成果へ直結させる標準モデル。

FOUNDATIONに加え：

- ✓ 実務マニュアルの最適化
- ✓ マルチチャネル活用設計
- ✓ 社内発信文化の定着支援

Advanced

組織変革伴走プラン

投資額 (6ヶ月)

720 万円～(税別)

業界プレゼンス確立への投資

業界内での圧倒的な技術プレゼンス確立を目指す企業様へ。大規模カンファレンスやリッチコンテンツ制作を含めた、組織変革レベルの並走支援を行います。

STANDARDに加え：

- ✓ 大規模イベント企画支援
- ✓ 動画/Podcast等の制作
- ✓ 完全並走型ハンズオン

貴社の技術ブランド戦略、まずは現状整理から

経営視点で技術広報の課題を可視化し、最適なロードマップを描きます。

STEP 01



無料戦略診断

(経営課題の可視化 / 30分)

独自のフレームワークを用い、貴社の「戦略・実行・組織」におけるボトルネックを経営視点で整理します。

STEP 02



最適な支援プランのご提案

診断結果に基づき、貴社のフェーズと課題に最適な『GIBAN』の活用方法とロードマップをご提案します。

STEP 03



最短1ヶ月で着手

合意後、直ちに「戦略資産」の策定に着手。組織変革のスタートラインに立ちます。

技術広報を「経営のアジェンダ」へ。

組織によって課題は千差万別です。

貴社だけの勝ち筋を見つけるための無料相談から承ります。

まずは課題整理のご相談から →